

日建連初のオンライン現場見学会を開催

マスタード商会 吉川 ゆこ

日建連は東京書籍株式会社と共催で、七月十七日にオンライン現場見学会を開催した。これまで、二〇一五年度より女子小中学生とその保護者を対象に「けんせつ小町活躍現場見学会」を夏休み期間中に開催してきたが、二〇二〇年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。そこで今年度は日建連として初めての試みとなるオンラインでの現場見学会を開催することになった。

見学会が開催されたのは奥村・大豊建設共同企業体(特)が施工を担当している千代田幹線整備事業の現場だ。本事業は、東京都千代田区飯田橋付近から港区の芝浦水再生センターまでの全長約八・七キロに及ぶ千代田幹線を新設し、下水の流れを切り替えることにより、老朽化した既設幹線を再構築



無料配信で行われた「あしたねLIVE」



ハニカムセグメントを模した背景をバックにオンライン配信

すること、また、皇居外濠に流れ出していた下水を千代田幹線に流すことにより、皇居外濠の水質を改善することを目的としている。

東京の地下約六〇メートルで、どのような作業が行われているのか。普段は見ることでできない現場を見ようと、当日は小中学生とその保護者を中心に視聴者が集まった。はじめに西沢武司所長があいさつし、その後、吉田英典副所長やけんせつ小町工事チーム「千代田のキャッツアイ☆」の一員で、工務担当の南部忍さんが、事業内容や工法の説明を



細かい解説はビデオ映像を使用

細かい解説はビデオ映像を使用。今回の見学会の目玉は、六階建てビルに相当する大きな防音ハウス内にある中央管理室やセグメント置き場、直径約五メートルにもなるトンネルの入り口、そしてシールドマシンの先端部といったリアルな工事現場の生中継によるレポートだ。防音ハウス内の中継は「千代田のキャッツアイ☆」の一員で、機械担当の藤沼花奈さん。入社四年目の藤沼さんは少し緊張気味だったが、身振り手振りを交えながら「セグメントを運ぶ天井クレーンは、アフリカ象三頭分の重量まで運べる」といった、子どもにもわかりやすい例えを使って説明していく。直径一八メートル、深さ六〇メートルという発進立坑の規模

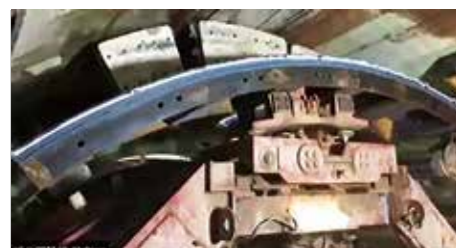
の大きさも十分に伝わってきた。きれいに整備された女性用更衣室を紹介する一幕もあり、建設業が誰にとっても働きやすい環境づくりに取り組んでいる様子も知ることができた。地下へはエレベーターで下りていくが、そうした移動の時には電波が乱れやすい。そこで中継が途切れやすい箇所は、事前に用意しておいた動画で対応するなど、オンライン配信を滞りなく続けるための配慮も十分だ。中継は藤沼さんからシールドマシンから先端部で待機していた土木担当の杉村晋之介さんにバトンタッチ。エレクターを稼働させ、セグメントを設置する様子を臨場感たっぷりに伝えた。



セグメントをシールドマシンの先端まで運ぶ台車を動かして実況



防音ハウス内を案内する奥村組・藤沼花奈さん



セグメントが設置される瞬間を実況



シールドマシンの先端部分のレポートを担当した奥村組・杉村晋之介さん

「到達までは長い道のりですが、やればできるという気持ちでがんばりたい」と意気込みを語り、建設現場などで広く使われている「ご安全に！」の掛け声を視聴者に向かって届け、オンライン現場見学会は終了した。